

国際交流基金助成事業報告書

薬学研究科 薬学専攻

博士課程 2 年次生

中山 結月

1. はじめに

この度、国際交流基金による助成を受け、2025 年 12 月 3 日から 2 日間にわたりマレーシア（スパン・ジャヤ）で開催された 2nd International Conference in Pharmaceutics and Cosmetics (ICPCos 2025) へ参加し、自身の研究成果を発表したので報告する。

2. 学会について

ICPCos 2025 は、製薬技術、バイオテクノロジー、製品開発の進歩を通じて QOL の向上を目指す国際学会であり、医薬品科学や化粧品科学を専門とする研究者が世界中から集まり研究成果を共有した。ICPCos は 2024 年に新設された学会であり、第 2 回となる今回は新たに口頭発表部門が設けられ、私は同部門において研究成果を口頭発表した。学会は、QS 世界大学ランキングで世界 36 位にランクインする Monash University の海外分校である Monash University Malaysia で開催された。

3. 学会の様子

発表形式は特別講演・口頭発表・ポスター発表があり、対象分野は化粧品科学、製剤技術、医薬品/バイオメディカル分析、バイオメディカル科学の 4 つのトピックに分かれていた。私は製剤技術分野において、“Design of Drug-Loaded Supraparticles: Morphological Control and Release Characteristics”をテーマに口頭発表を行った。また、特別講演では当研究室の戸塚裕一教授が招待講演として発表された。発表会場は数百人を収容する講堂であり、発表者は壇上で英語による発表を行った。私は、英語での口頭発表は初めてであったうえ、発表 15 分間+質疑応答 5 分間という長時間であったことから、準備段階からとても緊張していた。研究室内での発表練習では先生方に内容をご確認いただき、原稿を読み込んで完全に暗記し、準備を重ねた結果、本番で落ち着いて発表することができた。質疑応答では、審査員の先生方から質問をいただき、拙い英語ながらも自分



発表時の様子（口頭発表）

の考えを伝えられたと感じている。その結果、口頭発表部門において“Silver Prize”を受賞することができ、準備の成果が評価されたことを大変嬉しく思った。一方、今回の口頭発表の部門で Gold Prize を獲得した Monash 大学の助教の先生の発表は非常に堂々としており、研究者としての経験値や英語力との差を痛感した。今後、英語力及び研究能力をさらに高める必要性を強く感じた。



ポスター発表会場



授賞式



賞状

4. Monash 大学について

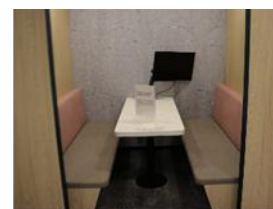
今回の学会参加は、Monash 大学との提携に向けた視察も兼ねており、私は戸塚教授に同行して Monash 大学の先生方より大学を案内していただいた。Monash 大学には薬剤師を目指す学生が多く在籍しているが、少数ながら製薬企業への就職を志望する学生もいる。校舎は大きく 9 つほどに分けられ、研究棟や講義棟など、大阪医科薬科大学 阿武山キャンパスと似た構造をしていた。しかし、講義室の作りは大きく異なり、小テーブルがいくつか配置され、そのテーブルを数名の学生で囲むような作りをしており、教員主体の講義だけではなく



正門



校内のモニュメント



休憩スペース（手前）
個室ブース（奥）

く、学生が主体となってディスカッションを行い、その成果について発表するような授業形態をとっていた。また、校内には至るところに休憩スペースや自習スペースが設けられ、大学院生専用の自習室（GRS HUB）や WEB 会議参加用の防音スペースも整備されていた。研究は研究室で行い、データ整理や資料作成はその学生用スペースで行う学生も多いとのことであった。



講義室



防音会議スペース



研究紹介ポスター

5. マレーシアについて

マレーシアでは、MRT や LRT といった電車が整備されており、Monash 大学の近くにも LRT の駅がある。また、国内では配車サービスの Grab が広く利用されており、日本の Uber



MRT



トークン売り場



トークン



路線表



正門付近の Grab 乗り場

Taxi のようにアプリで簡単にキャッシュレス利用ができる。MRT・LRT・Grab はいずれも料金が手頃で、大学正門付近には Grab 乗り場も設置されていた。Grab は便利である一方、夕方には交通渋滞が発生し、市街地では目的地まで時間がかかることもある。その場合は電車を利用することでスムーズに移動することができる。

マレーシアの気候は年間を通じて 25~30 度程度で、4 月や 11 月は雨期に当たりスコールのような強い雨が降ることがある。滞在中も 1 時間ほど激しい雨が降り、その後晴れるといった天候の日も多々あった。通貨はマレーシアリングgit (MR) で、滞在時のレートは 1MR=約 37 円だった。物価は日本と同程度だが、宗教上の理由で飲酒しない人が多く、アルコール類は日本の 2~3 倍と高価であった。しかし、他国と比べると生活しやすい環境であると感じた。



KLCC



Batu Caves



ナレシマ (マレーシア料理)

6. 終わりに

国際交流基金の助成により ICPCos 2025 へ参加し、国際学会において初めて口頭発表を経験し、さらに Silver Prize を受賞するという大変貴重な経験を得ることができた。今回の発表を通じ、日頃から研究活動に励み、学会発表に向けて入念に準備を行うことで、海外大学にも劣らない発表が可能であると感じた。一方、英語の流暢さに関しては課題が残り、日頃からの語学学習の重要性を痛感した。また、日本とは異なる文化や宗教に触れ、マレーシア文化の魅力を感じるとともに、日本の良さも再認識する機会となった。国際学会や Monash 大学訪問を通して多くの方と交流し、研究内容について議論を深めることができ、自身の研究意欲および語学学習意欲の向上につながった。このような国際交流基金助成制度を有する薬学部は少なく、非常に有意義なすばらしい制度であると実感した。

最後に、このような機会を与えてくださった戸塚裕一教授をはじめ、研究室の先生方、Monash 大学の先生方、およびご支援いただいた多くの方々に心からの感謝の意を表し、報告とさせていただきます。